



いっしょに考えてみませんか？

「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」①

「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」とは？

昨年3月に策定された「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」は、これまでのように「山林業・木材産業」という特定の分野ではなく、「山Ⅱ住民の暮らしを支える大切な社会基盤」としての役割を大切にしています。そして、本町に暮らし一人ひとりが主役となるビジョンです。

ビジョンでは、「山村の暮らし」「自然環境」「山林の管理」「林業経営」の4つの柱とこれらをバランスよく推進していくために18の基本方針を設定しました。

今回から、全4回に分けて、この新たなビジョンの内容についてお伝えしていきます。

「私たち」や「次の世代」が住みやすい町にしていくための大切なビジョン。この機会に「ビジョンと自分との関わり・役割」について考えてみませんか？

「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」4つの柱と18の基本方針 「暮らし」「自然環境」「山林の管理」「林業経営」

山村の暮らし	自然環境	山村の管理・マネジメント	林業経営
山に寄り添う暮らしの創出	生物多様性の安全	ソフトインフラの整備（山林情報等）	人材育成
町民の木づかいの促進	自然災害に対するリスクマネジメント	ハードインフラの整備（林道・森林作業道等）	低コストかつ持続可能な林業経営の推進
地域の担い手創出	生物リスクに対するリスクマネジメント	所有者の責任	智頭林業のブランド力向上
再生可能なエネルギー及び資源の自給	美しい景観の保持	利用者の責任	地産他消の推進
	流域への配慮	適地適木	

第1回

「山村の暮らし」

～山に寄り添う暮らしの創出～

江戸時代に書かれた書物『因幡民談記』には、各地域の産物として、次のものが載っています。

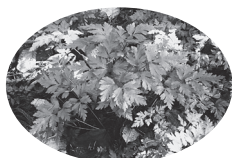
●智頭郡の村々

各種紙類・ウルカ（鮎）・漆・木蠟・真綿・柿・茶・独活・蕨・栗茸・猪・猿・熊

●本谷の村々

つづら藤・茶・鳥獣等

また、『因幡誌』では、生育した杉林の下で、黄連（薬草）の栽培が盛んに行われていた記録が残っています。



▲黄連

このように、本町では、昔から山村の豊かな恵みを存分に活かし、「人と自然が調和した生業」を作り出してきました。現在でも、各集落が山から水を引いて管理し、営農活動、獣害対策や環境整備などに取り組みながら暮らしが営まれ、「自治力」が育まれています。また本町ならではの取り組みとして…

森林セラピー®

民泊

森のようちえん



▲森林セラピーガイドの研修会

などが推進されています。

町民の皆さん一人ひとりが、日々智頭の山に寄り添いながら生きがいを感じて暮らししていくことが、今後の地域の持続性につながっていきます。

次回は自然環境（柱2）について紹介します

問合せ先

役場山村再生課

☎75-3117